

令和3年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：事前・事後学修、特に事後学修のための課題等の提示等が行き届かずに学修時間が十分に取れていない科目が見受けられた。
	理由	例年、直接学生へ予習復習の必要性の説明や事前調査、事後課題等の提示は実施しているが、今期は通学バス等の関係で曜日によっては遠隔授業、或いはハイブリッド授業も混在したことから、十分に連絡等が行き届いていないことが原因と推察される。また、学年によっては実験・実習のレポート課題が多く、他の科目の予習・復習に時間が割けないことも原因とも考えられる。
②	課題	継続：専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）の履修者数が多い授業では、理解度が低い傾向にある。
	理由	新型コロナウイルス感染の影響で、学生間の距離を保つため、講義科目ではスペースの広いメモリアルホールや大講義室等を使用した。このことから後方から板書の字やスクリーンが見えにくいこと、声が聞き取りにくいこと（マイクに雑音が入る）などの支障が出た可能性が高い。加えて、グループワークなどの取り組みもできないことも一因だと推察される。また実験・実習科目についても、履修者を2グループに分けて、実施曜日を変えて週2回行うことで対応したが、TAなどの十分確保できないことや操作等に目が行き届かないこともあり、理解度が低くなっている可能性が考えられる。また、学生同士が集まっていた勉強会（ピアサポート）なども実施できなかったことも影響している可能性がある。
③	課題	入学初年度の基礎科目から専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）への接続性・連続性がない。
	理由	現行カリキュラムでは、1年次は基盤教育が中心であり、2年次以降に開講される専門基礎科目や専門科目が実験・実習も含めて同時並行的に開講される等が原因であると考えられる。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	これまでも講義の際、課題、小レポート、小テスト、グループワーク等を提示し、事前・事後学修を促進する取り組みを行っているが、十分に成果が表れてはいない。新型コロナウイルス感染の影響がなければ、学生同士がピアサポート的に教え合い、学び合うことで主体的で能動的な学びも期待できるが、現段階では難しい。とは言え、本取り組みは必要があることから、教員と学生間の情報共有をZoomやTeams等で密に実施することを含め事前・事後学修を促すよう3月の教員会議・教授会、学類会議を通じてお願いする。また2年次に開講が集中している実験・実習科目については、新カリキュラム改編でR4年度から正常化が図られる見込みである。
	② 双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD（Learning Through Discussion）、ピアサポートの実施・活用を促したいところではあるが、新型コロナウイルス感染の影響で容易ではない。このことから、学修支援システムをフルに活用し、コメントカードやレポート、事前学修（簡単な演習）のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り学修の向上に努めるよう、3月の教員会議・教授会、学類会議を通じてお願いする。
③	本課題については、令和4年度からの新カリキュラムで1年次から専門基礎科目や専門科目（実験・実習も含む）の導入が図られ改善する見込みである。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

授業実施の良い事例・改善例としては、「公務員への志願者も近年多くなっており、幅広く公務員試験対策にも繋がるような授業へ工夫していきたい」、「毎回の授業の中でミニテストを実施しながら知識の定着を図る」、「理論と実践をいったり来たりしながら学ぶと共に、分析手法の理論に加えて、実社会でどのようにデータが使われているか分かるよう工夫していきたい」などであった。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

先ずは、3月の教員会議・教授会、学類会議を通じて事例を紹介し情報の共有化を図る。さらに、より良い授業の在り方について学群や学類のFD等を企画・実施し、グループ討議なども交えてボトムアップを図っていく予定である。